

事例 13 教員研修(小・中学校 5)

【多摩森林科学園年報 40 号:P49-50】

「森林教育のための教員研修」(第5回)開催報告

2017 年7・8月実施 森林教育

多摩森林科学園の地域連携活動として、学校教育での森林教育の支援を通じて未来を担う子ども達への森林教育活動に貢献することを目的に、東京都産業労働局森林課と連携して教員研修(2種類)を実施しました。研修は、東京都教育委員会の推薦を受けています。

1. 多摩森林科学園での教員研修(7月27日)

多摩森林科学園で実施する東京都の教員研修は、5回目を迎えました。今年は「木の利用」をテーマに、7月27日(木)に実施しました(写真1)。研修会には、学校教員8名(小学校4名、中学校4名)が集まりました。参加者の担当は、理科、社会科、技術科、特別支援、数学・算数、管理職など多様でした。今年の特徴は、研修参加の動機に、体験型活動の指導研修を挙げた方が多かったことがあります。学校教育では、「学習指導要領」改定に伴い、アクティブラーニングなど「主体的・対話的で深い学び」の実施が求められていることを反映して、研修にも体験型での学習、特に体験活動の指導(農林業体験や自然観察)のニーズが高いようです。研修では、東京都が推進している「木育」を取り入れた内容を実施しました(表-1)。

表-1 「森林教育のための教員研修」プログラム(7月27日)

時間	内 容
10:00	開講式, 自己紹介
10:30	概要説明「学校教育と森林教育」(講師:井上真理子)
11:00	研修1 木の利用を考える －「森のポスト」を利用した樹木観察－ (講師:大石康彦)
13:00	研修2 自然素材を活用した造形ワークショップ －いろいろな割り箸を使って－ (講師:田中千賀子)
15:00	総合討論
15:30	閉講式, アンケート



教員研修(7月27日)開講式



「森のポスト」を活用した樹木観察

事例 13

【多摩森林科学園年報 40 号:P49-50】

研修では、概要説明として「学校教育と森林教育」と題し、多摩森林科学園で実施している森林教育研究の成果をふまえて、森林と教科との関わりを紹介しました。東京都内の森林率(約3割)、東京の多摩産材の木材生産(2.3 万m³/年)も紹介しました。研修1では、木とその木材の利用を紹介した樹木園のフィールド展示「森のポスト」を使った樹木観察を通じて、身近な木の利用を紹介しました(写真2)。研修2では、6種類の割り箸を削り、樹種の違いを感じる造形ワークショップを行いました(写真3)。

参加者によるアンケートの結果、研修会全体の感想(5段階評価)は平均評価 4.75 と非常に高く、今年も好評でした。印象に残った研修内容(記述式)は、樹木から木材、製品のつながりがわかったこと、木材の種類を考えるようになったこと(「森のポスト」)、多摩産材や林業についての教科横断的な内容、などが挙げられました。また、研修の成果として、参加された方全員が学校教育に活用する予定と回答されました。学校で活用する方法には(複数回答)、「授業で活用する」3名(総合的な学習の時間2, 理科1, 道徳1, 学級活動1)の他に、「森林体験を実施する」1名(社会科見学)、「ホームルーム等で生徒に話す」4名、その他(他の教員やクラブ活動で紹介するなど)がありました。

研修は、今年から教育委員会の推薦を受けたことで、休暇をとって参加していた人がいなくなり、全員が職務等での参加となり(出張3名, 研修4名, 職免1名)、研修に参加しやすくなっていました(公費での参加5名, 研修報告義務あり2名)。

2. 出張教員研修(8月 15 日)

今年は、都市部を会場にした教員研修も試行しました。調布市で、里山的な景観を残す農場を保有し管理している東京都立農業高等学校神代農場からの依頼を受けて、8月 15 日(火)に森林教育の教員研修を行いました(参加者9名)(写真4)。研修内容は、多摩森林科学園の教員研修に準じて「木育」を取り入れ、「学校教育と森林教育」の概要説明の後、神代農場の職員の指導により施設見学と竹の伐採作業と竹製品づくり(器と箸)を行いました。都市部での森林教育を実施する可能性と課題を考える機会となりました。

今後も、地域との連携を図りながら、研究成果の普及を図る活動を進めたいと思います。



割り箸を使った研修



教員研修(8月 15 日)竹細工

(井上真理子・大石康彦)